

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 安城市立里町小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒446-0001

愛知県安城市里町足取1番地5

E-mail satomachi@anjo.ed.jp

Website http://www.anjo.ed.jp/~satomachi/

幼児児童生徒数 男子 324名 女子 281名 合計 605名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

本校では、「自分らしい生き方をするために必要な力を発達させていく過程を支援する」キャリア教育を行っている。

ESDを社会や自分との関係を見つめ、持続可能な社会づくりに参画するための教育と捉え、ESDの実践を通して、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成を目標とした。

具体的には、教育活動において、SEタイムや、PS活動、EDCステップ、DF集会を行った。

#### ① 「自己理解・自己管理能力」をはぐくむSEタイム

SE (self esteem) タイムは、朝の帯時間に行われ、「書きたいム」「話したいム」「聴きたいム」「読みたいム」から構成されている。例えば、「聴きたいム」では、自分の生活と社会とのかかわりについて、友達の考えを聴くことを行った。児童は、多様な考え方にふれ、自らの考え方を振り返ることができた。

②「課題対応能力」をはぐくむPS活動

各教科や総合的な学習の時間、特別活動の場面において、PS (problemsolution: 課題解決) 活動を取り入れた。1 課題をもつ2 解決のための方法を計画し追究する3 結果を整理・分析・発信する4 新たな課題を見つけるの流れで、追究を繰り返し行った。児童は、自分の生活には何が大切なのか、問題を追究することができた。

③「人間関係形成・社会形成能力」をはぐくむEDCステップ

授業には、確かな根拠をもとにした対話活動、それを通して行われる合意形成をするEDC (evidence: 根拠・dialogue: 対話・consensus: 合意形成) ステップを取り入れた。児童は、自分の生活と社会とのかかわりを考えながら、多様な考え方をすりあわせ、新しい生活や社会のあり方を合意形成することができた。

④「キャリアプランニング能力」をはぐくむDF集会

児童が社会に対する視野を広げたり、新しい価値観を得たり既存の価値観を深めたりするために、DF (dream of future) 集会を行った。児童は、社会人講師から、生き方や仕事のやりがいについて話を聞き、これからの生活について考えることができた。



①SEたいム  
「話したいム どっちがいいか」



②3年総合的な学習の時間  
「福祉学習・介護老人保健施設さとまち訪問」



③5年社会科  
「車づくりってすごい 未来の車を考える」



④DF集会  
「地域の獅子舞を守る獅子頭製作者のお話」

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

ESDの視点を取り入れたキャリア教育を学校の教育活動全体の取組として、デザインしている。どの教科においても、持続可能な社会の構築に関わる内容を取り入れ、自分らしい生き方をするために必要な力を発達させていく過程を支援している。教科等横断的な授業を行う際には、問題解決に向けての考えを深め、地域や日常生活に存在する具体的な課題とつなげて考え、身近なものとして捉えて行動までつなげるようにしている。学級活動・児童会活動・学校行事等の特別活動、その他様々な教育活動の中で位置付け、学校全体としての取組にしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

学区や地域には、どのような特色があり、どういったことが課題であるかを把握し、教材として取り扱っている。市や町内の担当部署や、地域で活動を行う方々に対して、学校から協力を依頼し、教育活動に参加していただいている。総合的な学習の時間では、3年は福祉、4年は環境、5年は勤労生産（稲作）というように、大枠を決めているので、地域からの協力が得やすい。また、町内会やPTAの協力を得て、地域の人材やボランティアの募集も行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

6月と12月に、保護者、児童、教員を対象にアンケート調査を行った。アンケート結果から、児童にも教師にも、与えられた課題だけで満足せず、自ら学ぼうとする姿勢を育む必要があると考える。そのために、今後も自ら問題を追究し、見方や考え方を広げていく喜びを実感させるキャリア教育を推進していく。課題を与えるのではなく、児童の生活から問題を見つけ、学習した内容と生活を結び付けていく授業の工夫が必要であると考えている。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

日々の教育実践を学校だよりやHP等で発信した。家庭や地域に周知していくことで、新たなボランティアや講師、教材を発掘し、学校・保護者、地域をあげての教育活動にしていくことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

愛知教育大学より、講師を招聘し、授業開発や、授業実践、協議会を行った。大学と連携し、専門的な知見を生かした学習を行うことができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

交流実績はないが、将来的な交流のためのネットワーク構築に向けて、ユネスコスクール公式ウェブサイト等を閲覧し、交流学习を検討した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

授業中、自分の思いや考えを整理し、進んで発表するなど伝えることができる児童が増えている。本年度、授業における対話や合意形成の段階を工夫した成果であると考えます。また、相乗効果として、自分からあいさつができる児童も増えた。地域の方や保護者からも、あいさつできるようになったとほめられることが多くなりました。

### （3）平成30年度の活動計画

平成29・30年度の2か年にわたり、安城市教育委員会の研究委嘱を受け、学習指導の研究実践に取り組んできた。平成30年度は、下記のとおり研究発表会を開催する予定である。

- 1 日時 平成30年10月18日（木）
- 2 会場 安城市立里町小学校
- 3 研究主題

「きたえ、のばし、はぐくむ キャリア教育」  
～SEタイム、PS活動、EDCステップ、DFプランの実践を通して～